

# いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第59号  
(平成26年3月1日号)  
岩手県

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っています。

時折春の気配を感じながらも、まだまだ雪景色が残り、もうしばらく寒さに耐える岩手県の3月。  
復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

## “東日本大震災津波の観光面からの復興支援”

### JR釜石線「SL 銀河」が4月12日から運行開始



JR東日本盛岡支社は、4月12日（土）から、釜石線（花巻駅～釜石駅間、90.2キロ）で蒸気機関車「SL 銀河」の運行開始を発表しました。

これは、東北エリアへの旅行客の増加を通じ、観光面からの復興支援と地域の活性化のために行われるもの。車両は1940年から山田線などで運行されていた「C58形239号機」が利用され、廃車となった1973年以来約40年ぶりの復活となります。

「SL 銀河」の運行は土日を中心で、年間約80本を予定。運行日時は、土曜日の午前10時37分に花巻駅発、午後3時4分に釜石駅着。日曜日は、午前10時55分に釜石駅発、午後3時20分に花巻駅着を予定。所要時間は片道約4時間半で、釜石・花巻間を2日間に分けて往復します。

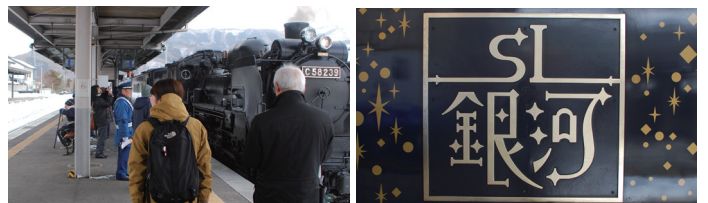
乗車定員は176名で、指定券は乗車日の1ヶ月前から購入可能です。

「SL 銀河」の点火のため、今年1月には、釜石駅前広場にある「ものづくりの灯」から採火。被災地が力強く復興することを祈念しました。

今年4月に全線復旧する三陸鉄道とともに、復興の後押しとなることが期待されます。



試運転中の「SL 銀河」



試運転中の SL に集まる観光客

客車のプレート

## 岩手・宮城・福島 東北3県物産展 開催中！

東北3県のいいもん・うまいもんが大集合

盛岡市

2月22日（土）、全国商工会連絡会主催の東北3県復興物産展「HIKARI（ひかり）」が、盛岡市菜園ベルトリビルで始まりました。



地域の特産品が並ぶ店内



復興物産展の店舗

東日本大震災津波発災からまもなく3年。復旧・復興へ向かう岩手・宮城・福島の中小企業等、約100社が参加。岩手県（盛岡市）、宮城県（仙台市）、福島県（福島市）の3会場で同時に開催されています。

会場には、農商工の連携や地域資源の活用により開発された商品や、地域の特産品、約600種類が集結しています。

同物産展は、3月23日（日）まで行われ（営業時間・午前10:00～午後6:00）、開催期間中の土日には、岩手・宮城・福島の「うまいもん」が日替わりで振る舞われます。

## いわて復興応援団（員）大募集中！



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料

いわて復興応援団

検索

# 旧山古志村の若者たちに学ぶ 被災経験者との意見交換会が開催されました

大槌町

2月22日（土）、新潟中越地震被災経験者と大槌町の若者との意見交換会（主催：一般社団法人おらが大槌夢広場）が行われました。

これは、震災経験者である旧山古志村（現：新潟県長岡市）の同世代から被災と復興の経験を学び、大槌町の復興に役立てようと企画されたもの。

新潟県長岡市からは20代の若者たちと関係者の12名が、大槌町からは県立大槌高校の生徒4名と大槌町出身の大学生2名が参加。

まず、参加者たちは、震災語り部ガイド東梅和貴さんとともに、多くの犠牲者が出た旧大槌町役場や町内を一

望できる城山公園などを見学。

その後の意見交換会では、震災後やっておけば良かったこと、やっておいて良かったことなど、旧山古志村での経験を聞くと同時に、これからの大槌について意見を交換し、交流を深めました。

参加した県立大槌高校3年生の佐藤巧真さんと小国琢さんは、「僕たちは、4月から大槌町の消防署と役場で勤めます。お互いに情報交換ができ、新しいつながりができました。旧山古志村のみなさんに学ばせてもらったことを、復興に役立てていきたい」と復興への熱い想いを語りました。



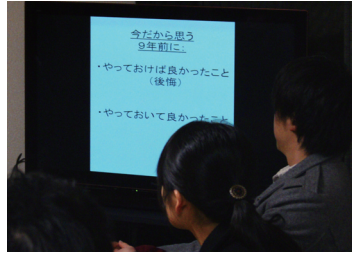
旧大槌町役場の見学



城山公園から大槌町を見下ろす



意見交換会の様子



意見交換会の様子

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第14回目は、松田 恵美子さんを紹介します。

## PROFILE

陸前高田市横田町生まれ。

津波の到達ラインに桜の木を植え、後世に伝える「桜ライン311」プロジェクトの立ち上げメンバー。

住田町にある株式会社神奈川精工 若手工場に勤務する傍ら、陸前高田市青年団体協議会の事務局長を務める。



陸前高田市青年団体協議会  
事務局長  
松田 恵美子  
(まつだ えみこ) さん



松田さんからのひと言：  
未来をみすえたまちづくり

地元の人々に娯楽や明るい話題を提供したいと考えています。

## 若者の意見を入れた 未来の陸前高田のために

震災後、復興まちづくりについて若者の意見を聞きたいという陸前高田市長の意向を受け、青年団体協議会主催の若者会議を開催。「わたしたちが思う陸前高田」について話し合いを重ね、市に提言書を届けています。

「陸前高田市はがれきも少なくなったので、これからはいろいろな人の意見を取り入れ、徐々にでも復興へ向けて進んでいきたいと思っています。災害は完全に防ぐことはできませんが、少しでも被害の少ないまちづくりが必要だと思います。今後、若者の話し合いも月1回ペースで開催する予定で、話し合いのみならず、これまでの現場での経験を踏まえ、市長に提言し続けたい」と市とともに未来の陸前高田を作る意気込みを語りました。

## 岩手県の被害状況

平成26年2月28日現在

- ▶人的被害 死者（直接死）：4,672名 行方不明者：1,142名
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 25,706棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

## 皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年1月31日現在

- ▶義援金受付状況 約178億5,943万円（87,052件）
- ▶寄付金受付状況 約186億8,803万円（6,579件）
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約62億6,919万円（12,017件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第59号 平成26年3月1日

企画・発行：岩手県復興局総務企画課

☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

いわて復興だより

検索

編集・印刷：シナプス